



哀歎抄（十二）

尾崎文英^{ぶんえい}

神の意志あると思えて薪能

生命いまもつとも大事母草

蓴菜を摘みつつ舟の妻若し

濁容れ元政の生今年竹

ゆけむりのおみなどなつてむこうむき

日傘振り海への道を孫娘

風聞いて突つ伏している捨案山子

雪変化見ては下りぬ紅葉谷

小夜千鳥筑前琵琶の炎めく

花芒画狂北斎顔を出す

